平成18年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 マガレイ

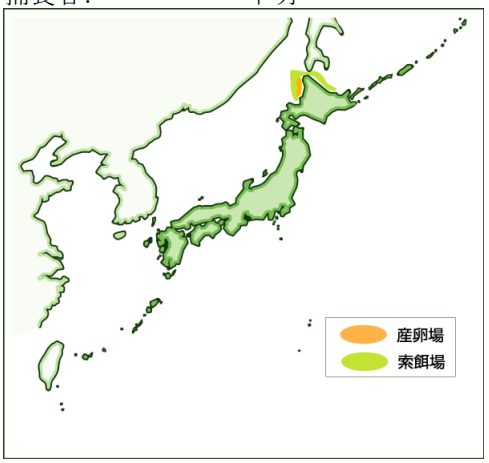
学名　*Pleuronectes herzensteini*

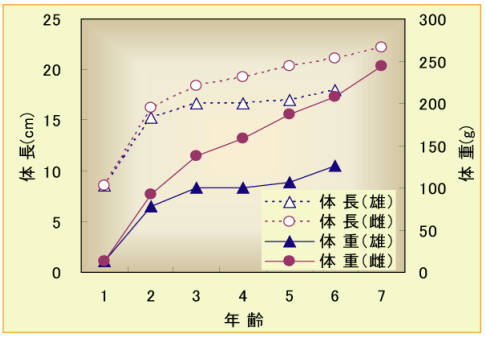
系群名　北海道北部系群

担当水研 北海道区水産研究所

生物学的特性

寿命:　雄10歳、雌12歳
成熟開始年齢:　2歳
産卵期・産卵場:　4～6月、主に苫前沖～利尻、礼文島周辺海域
索餌期・索餌場:　オホーツク海と日本海初山別以北の沿岸
食性:　仔魚はカイアシ類、未成魚と成魚はゴカイ類、二枚貝類、ヨコエビ類、クモヒトデ類
捕食者:　不明



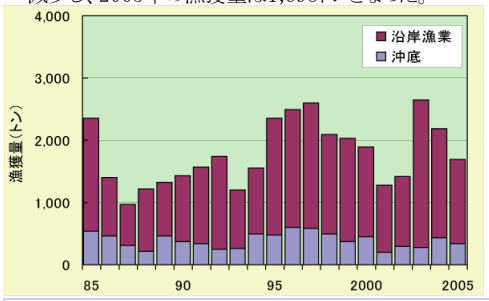


漁業の特徴

マガレイ北海道北部系群は、主に刺網と沖合底びき網（沖底）によって漁獲されている。オホーツク海側での操業は、開氷後の5月中旬～下旬に始まり、結氷期前（12月下旬）まで続く。一方、日本海側での操業は、秋季（9月中旬）に始まり、4～5月に盛漁期を迎え、産卵がほぼ終わる6月末に終了する。また、日本海側では主に成魚が漁獲されるのに対し、オホーツク海側では主に未成魚が漁獲される。

漁獲の動向

漁獲量は、1988年以降増加傾向を示し、1997年には2,592トンに達した。しかし、1998年以降は減少に転じ、2001年には1,280トンに落ち込んだ。その後2003年には前年の倍近い2,651トンに達したが、2004年以降、毎年約500トン減少し、2005年の漁獲量は1,698トンとなった。

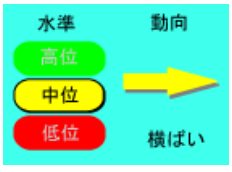


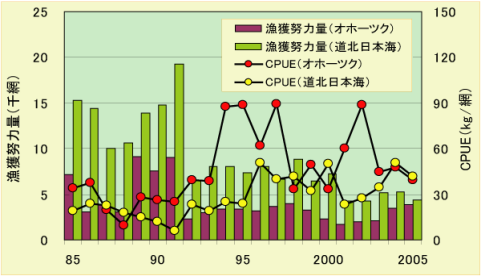
資源評価法

CPUEは沖底についてのみ算出されているが、沖底の漁獲量が全体の2割程度であること、沖底の漁場が全体を覆っておらず漁獲物体長組成に違いがあることより、沖底のCPUEの変化は、資源量の変化を必ずしも反映するものではないと推察されるため、漁獲量を基に資源評価を行った。なお、北海道立水産試験場（北水試）では本資源について、VPAによる資源解析を行っており、その結果及び北水試による幼魚調査結果を参考とした。

資源状態

2005年度の漁獲量は、過去21年間（1985～2005年）で11番目に高い値であったため、資源水準は中位と判断した。また、過去5年間（2001～2005年）の漁獲量の経年変化をもとに、資源動向は横ばいと判断した。北水試によるVPAの結果から、2000年と2002年に豊度の高い年級群が隔年で加入し、さらに、幼魚調査結果から、2004年級群の豊度は高い可能性が示唆されており、資源状態が急激に悪化する可能性は低いと考えられる。





管理方策

漁獲量を基に判断した資源の水準は中位で、動向は横ばいであった。また、本種を対象としている刺網漁業では、より高価な魚種への漁獲対象の移行がみられ、今後本種に対する漁獲圧が増加する可能性は低いと考えられる。以上より、現状での平均的な漁獲を継続して行くことで資源は維持されると判断し、ABClimitは過去5年間の平均漁獲量に1.0を乗じて算出し、ABCtarget は1.0Cave5-yrに0.8を乗じた漁獲量とした。

	2007年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	1,800トン	1.0Cave5-yr	-	-
ABCtarget	1,500トン	0.8・1.0Cave5-yr	-	-

資源評価のまとめ

- 漁獲量を基に資源状態を判断
- 資源の水準は中位、動向は横ばい
- 2004年級群の豊度が高い可能性あり

管理方策のまとめ

- 今後、漁獲圧が増加する可能性は低い
- 加入状況や漁業の状況から、資源の現状維持を目標とする

資源評価は毎年更新されます。